

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である経営理念は、朝礼、夕礼にて唱和している。 職員会議により、全職員から事業所としての理念を掲げる為、意見を持ち寄り、当ホームの理念を作成し、事務所内に掲示いつでも閲覧できるようにして、理念に基づいて実践している。	母体の理念を基に職員全体で話し合いの機会を設け事業所としての理念を作り上げ、管理者と職員は日々の中でも振り返りの機会をもちながら、サービス向上に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和元年11月に地域で開催される文化祭にて、貼り絵、習字の作品を掲示して頂いた。保育専門学校が近くにあり、文化祭があった際にはこちらから出向き参加している。	地域の方々とは気軽に挨拶を交わし合い、地域で行われる文化祭へは利用者の作品出品等もあり、近隣の保育専門学校での文化祭の作品を見に行くなど地域の方々と触れ合う機会は多くなってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、認知症の方の説明などを民生委員にしている。コロナが全国的に感染した際には、書面で質疑応答を設けているが、認知症に関する質疑はない状態である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、グループホームツクイ様と一緒に2か月に一回、御利用者様、包括支援センター、市担当者、ツクイ管理者様と1か月交代で行っている。ご利用者様の普段のホームの取り組み等を説明・報告し、意見を頂いている。	会議は定期的開催され、2ヶ月間の状況報告及び事業所の取り組みや利用者の活動状況について報告し、メンバーからの質問や意見をもらいサービス向上に役立てている。今後は利用者の参加についても特定はせず勧めていく考えでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者と日頃から密に連絡を取り合っていないが、何かあったら連絡するようになっている。	運営推進会議に市担当者、地域包括支援センターの職員にも出席してもらい活動状況について助言をもらう等している。不明なことがあれば日頃から電話での相談や情報交換もあり、気軽に何でも相談出来る協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月毎に職員会議にて、身体拘束についての研修を行っている。身体拘束をしないケアを実施している。	2ヶ月毎に内部研修で学ぶ機会を設け職員の共通認識を図っている。利用者一人ひとりの気分や体調をきめ細かく確認しながら安全面に配慮し、自由な暮らしを支えるようにしている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について研修し、事業所内で虐待を行わない、見過ごさない様努めている。	内部研修で「高齢者虐待法」に関する理解の浸透や法令遵守に向けた取り組みに力を入れ、日々の関りの中でも気づきがあればお互いに注意し合いながら防止に努めている。また管理者は職員の様子を観ながら声をかけるなど、気軽に話し合える関係性を心がけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状特に研修の機会には設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務所の窓口意見箱の設置、運営推進会議への家族の参加の機会を設けている。ご家族に当ホームの満足度アンケートを郵送し、アンケート調査を行っている。	家族面会の折には職員の方から声をかけ、利用者とともに気軽に何でも話してもらえぬ雰囲気づくりに努めている。また、毎月の手紙や電話の中でも利用者の生活の様子を伝え、意見や要望を伺うようにし、出された意見や要望は職員間で話し合い運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の面談、職員会議を行っている。	毎月の職員会議では自由闊達な発言があり、日々の中でも利用者にとって何が出来るかを話し合うなど、意見を聞くようにしている。必要時は管理者との個別面談も行い職員の意見や提案を聴く機会を設け、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社員は一人一人四半期毎の目標を立て、月に一度の面談で進捗状況を確認している。パートは契約更新時に勤務時間変更や条件などを改めて聞き取るほか、年に一度昇給がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修への派遣、実践を通してのOJTを実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特に機会は設けていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの際にご本人の要望を聞きとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントの段階でご家族の困っている事、希望をうかがっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	服薬の管理、入浴の実施など、どんな事を一番必要としているかをアセスメントして実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が全てやるのではなく、入居者様が出来た事は自分でやってもらう様に支援している。		
19	(7-2)	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には毎月のお便りを通して、日々の情報共有を行い、御利用者様の協力を仰ぐところは仰いでいる。	職員は家族の思いに寄り添いながら毎月の手紙の中や面会時に、健康状態や日々の暮らしの出来事など気付きの情報共有に努め、通院の付き添い、今は一時休止している自宅外泊の協力もいただく等、家族との絆を大切にしながら共に本人を支えていく関係継続に配慮している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族と外出、外泊、外食を楽しんだり、理容室を利用されたりと支援に努めている。	家族面会時は居室で気兼ねなくゆっくりと過ごして貰えるように配慮している。在宅時から利用していた理美容院へ行き続けている利用者や、家族と外出の折には行きつけの場所で共に外食を楽しんだりする方もおり、思いつき出話に耳を傾けながら一人ひとりの生活習慣を大切にしている。馴染みの人や場との関係が継続できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの移動や席替えなど、頻繁にはやらないが孤立する人がいないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者はいるが、御家族、退居先の施設からも特に連絡はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメント、ケアプラン更新時のアセスメントなどで聞き取りを行い、御家族にも意見を伺いながらケアプランを立てている。	入居前の自宅訪問にて、前事業者からの情報を得るとともに、職員間で話し合い、共有化を図っている。日頃の会話や日常的な関わりの中で利用者の視点に立った暮らしが継続できるよう、本人本位の対応に努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントで聞き取り調査をし、その他ご本人との会話の中で出てきた情報を職員で共有するようにしている。	入居前に利用者、家族、前担当者からの情報を聞き取り、日々の生活の中でその人らしい暮らしが継続できるよう把握に努めている。また、日常的な会話の中からも趣味や畑仕事などの情報を得て在宅生活からの支援に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中の家事や新聞たたみ、洗濯物たたみ、一段昇降運動、今日の日等レクリエーションを通じて心身の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体状況が変わった際など、入退院後今までの介護計画の変更が必要となった際には家族や職員と話し合い、介護計画の変更をしている。	実践状況の生活記録を活用しモニタリング、カンファレンスを開催、提案の把握に努めている。更新時は、家族来所時や電話等で意見、要望等をもらい、計画作成担当者が中心となって実践状況を確認し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を記録している他、ユニット毎に引き継ぎノートを作り、連絡事項を引き継いで職員で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限りニーズに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との協働は特に実践していない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医への受診を希望する方にはそのようにして頂いている。受診時の付き添いは家族をお願いしているが、急変時や家族の都合がつかない場合は、職員が付き添い対応している。	利用者、家族が望むかかりつけ医の受診を行っている。家族の協力も良く利用者は安心して受診できている。受診は家族対応が基本であるが、緊急時や家族が困難の場合は職員が代行している。情報伝達は専門用紙のサマリー表を持参し医師からの受診記録の伝達など、速やかに報告されている。看護職員の協力もあり医療体制は整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	勤務している看護師に気づいたことなどは相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関するご家族の意見を契約時に確認している他、看取りの希望がある際は協力医と連携してご家族の希望に沿うようにしている。	契約時に事業所の「重度化や終末期に向けた方針」に沿って説明し、本人、家族の意向を確認した上で同意を得ている。看取りについての研修、マニュアルも整備され、看護師の指導や協力医との連携も良く、新職員も不安なく看取りができる体制が整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応については研修を行った。急変時の対応の実践はまだ学んでいない。	職員会議でビデオ学習を基に、事故発生時に備えた基本的知識の研修を行っている。今後も事故発生時のマニュアルを基に、急変や緊急時対応に備え、研修や訓練を積み重ねながら実践に活かしていくことが期待できる。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜の避難訓練の実施は行っている。当ホームが停電になった際、その時には市役所から連絡が来て、こちらに連絡する様にと協力を頂いた。地域との協力体制を築けていない。	災害対策に従い、昼夜の避難訓練は実施している。避難場所、避難経路、備蓄などの確認もされ体制は整っている。地域との連携、協力を心がけているが近隣民家とは距離があり、協力体制については行政及び地域へ今後の課題として早急に相談しながら協力体制の構築を進めていくことが望まれる。	年間の災害対策に従い、訓練を実施し避難場所、避難経路の確認や備蓄の準備も整っている。今後は、地域の防災訓練、災害対策会議等も利用しながら、共に訓練を行うなど地域からの協力を得られる体制の取り組みが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇についての研修を行い、言葉掛けや対応について学んでいる。	職員会議にて接遇について研修を行い、尊厳の保持、プライバシー保護について話し合い、利用者個々の人格を尊重し、日々の会話の中からも注意し合い対応している。常に笑顔で向き合い、その人らしい暮らしが継続できるよう、研修を通して職員の資質向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ただこちらから提供するのではなく、外出やレクリエーションなど、本人の希望を聞いている。また、欲しいものなどの希望も聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室に戻ったり、食堂で誰かと話したり、本人の希望通りにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを整え、女性についてはアクセサリや帽子、化粧品など希望を聞いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭き、トレイ拭きは毎日お願いしている。食事の準備に関しては出来る方にはお願いしているが、毎日ではない。庭園で採れた野菜をメニューに取り入れ、職員と共に調理に参加して頂いている。	食事のメニューは母体で作成され委託業者の食材で利用者の要望を取り入れ、給食委員と共に調理されている。準備のできる利用者は、野菜の皮むき盛り付けなど、個々の機能に合わせ職員と共に行っている。時には、畑で採れた旬の野菜を盛り込んだ行事食メニューで調理されるなど、利用者は職員と共に食事作りを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態を個別で変えている他、水分摂取が進まない方にはゼリーを提供する、甘い飲み物を提供する、エンシュアリキッドを1缶、3食分に分け、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護度が高い方がいらっしゃり、日中、夜間とオムツ対応の方もいらっしゃるが、基本的にはほぼ全員トイレで排泄している。	在宅での生活習慣を活かした排泄を心がけ、トイレでの排泄を基本とし、ズボンの上げ下げや、移動などできる範囲の行動は声掛け見守りを行い誘導に努めている。全職員が共通した排泄ケアに向き合い、自立に向けた支援と機能低下予防の取り組みが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた予防は行えていない。入浴後に腹圧マッサージ等を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人ごとに曜日を決めているが、外出や入浴拒否があった場合は無理に入浴せず、曜日をずらす等している。	入浴日の設定はされているが、入浴拒否の方には曜日変更を行い利用者の希望に応じた対応を行っている。浴室内は福祉用具を活用し事故防止に努め、季節湯を楽しみながら、安全で気持ち良く入浴できる支援に心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠がみられた際には居室に誘導し、休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員が完全に理解しているとはいえない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・掃除など、役割を持ってもらうようにしている。生活歴を考えたり取り組みまではできていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日その日に外出支援はできていない。本人が行きたい場所へは家族と連携を取りながら外出できるよう支援している。買い物を一緒に行く機会も設けている。	利用者の希望に応じて、家族同伴で外出、お墓参り、食事、買い物、理美容院へ出かけたり、四季の野菜作りなど個人の希望に応じた対応がなされている。島外の家族の協力もあるが、現在コロナウイルス感染予防のため家族と一緒にの外出支援は自粛されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様本人が希望し、御家族も理解している方は本人が金銭を所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望する利用者様はご家族への電話をかける機会を確保している。手紙を出したい方は現在、いらっしゃらない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁の掲示物や植物など、季節ごとに変えている。	共有空間は明るく、壁面の空間は広く開放感があり利用者同士の団欒の場となっている。ベランダから草原や山々を眺め、リビングには季節の花や植物などを飾り四季を感じさせている。ベランダの畑には野菜を育て収穫を楽しむなど、居心地よく過ごせる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の変更等を行う事があるが、独りになれる空間は居室にて対応させて頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込み品は、ライターや生もの、冷蔵庫以外は特に制限しておらず、本人が使い慣れた家具や小物等、自分の物を持ち込んで頂いている。	本人、家族と相談し、テレビ、家具、写真や作品など普段から使い慣れた馴染みの物、思い出の品物を自由に持参してもらい、その人らしく落ち着いて過ごせる環境づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に大きく名前を貼る、トイレに分かりやすく目印を付ける等、混乱せず、一人でもそこまで行ける様に工夫している。		